

4 4領域を関連させた総合的な言語活動の立案と指導実践計画

第1年次の基本構想に基づき、総合的な言語活動とそれを支える基礎的能力を培うフォーマティブインプット&イージーアウトプットの指導実践計画を次のように立案した。

(1) 4領域を関連させた総合的な言語活動の工夫

コミュニケーションを支える基礎的能力を培う継続的な指導と4領域を関連させた総合的な言語活動を有機的に結び付けるために必要なのが、年間指導計画のバックワードデザインである。1年間でいつ、どのような総合的な言語活動を行わせたいかを考え、その活動で生徒に話させたり、書かせたりしたい英文を具体的に到達目標として設定し、その言語活動を支える基礎的能力を培う指導を日常授業で行っていく指導計画である。

そこで指導実践のために、教科書(NEW HORIZON ENGLISH COURSE BOOK2)の単元(題材)の言語材料の構成と、教科書において総合的な言語活動のモデルとして掲載されているMulti Plusを中心に、生徒の実態に合わせて、研究対象学年である第2学年の1年間に5つの総合的な言語活動を計画した。更に「書くこと」の領域における到達目標を【表4】のように設定した。

【表4】「書くこと」の領域での到達目標と総合的な言語活動の概要

タイトル	「書くこと」の領域での到達目標	総合的な言語活動の概要
総合的な言語活動Ⅰ 「日記」	文章の流れを考えて、3～4文程度の日記を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・一定期間継続して英文日記を書く。 ・過去の出来事について、友人とスキットを作成し発表する。
総合的な言語活動Ⅱ 「わたしの夢」	「将来なりたいもの・してみたいこと」について自分についての3～4文程度の英文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの夢」について、スキットを作成し対話活動行う。 ・「わたしの夢」というタイトルでの掲示物を作成する。 ・「わたしの夢」というタイトルでスピーチをする。 ・友人のスピーチを聞いたり、掲示物を読んだりして、簡単な質問や感想を話したり、書いたりする。
総合的な言語活動Ⅲ 「夏休みの思い出」	「夏休みの思い出」について4～5文程度の英文を書き、スピーチをすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「夏休みの思い出」というタイトルでスピーチを行う。 ・スピーチの内容について、簡単な質問に回答する。 ・「夏休みの思い出」というタイトルで掲示物を作成する。 ・友人のスピーチを聞いたり、掲示物を読んだりして、簡単な質問や感想を話したり、書いたりする。
総合的な言語活動Ⅳ 「わたしの町」	自分の住んでいる町を描写したり、紹介したりする4～5文程度の英文を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・A L Tに自分の住んでいる町について紹介する。 ・紹介した英文についてのA L Tの簡単な質問に回答する。
総合的な言語活動Ⅴ 「わたしの好きなこと・もの」	「自分の好きなこと・もの」について5文程度のスピーチ原稿を書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わたしの好きなこと・もの」という掲示物を作成する。 ・「わたしの好きなこと」についてスピーチをする。 ・スピーチの内容についての質問に回答する。 ・友人のスピーチを聞いたり、掲示物を読んだりして、簡単な質問や感想を話したり、書いたりする。

* 総合的な言語活動の概要は、実施する予定順で示している。

また、それぞれの総合的な言語活動までの、教科書の複数単元で構成される中・長期的なスパンを「クール」という語で表し、それぞれのクールごとに生徒に到達させたい目標文の例を具体的に示した。これが【補充資料1】の到達目標文の例である。具体的な到達目標文の例を設定した理由は以下のとおりである。

例えば、【表4】総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢」における「書くこと」の領域での到達目標は「『将来なりたいもの・やってみたいこと』について4文程度の英文を書くことができる。」と設定したが、これだけでは、具体的な到達目標が明確ではない。また、各クールにおける単元(題材)の言語材料との結び付きが見えにくい。教科書のMulti-Plusには次の【例1】のようなモデル文が掲載されているが、既習の言語材料を用いた生徒の自己表現の欲求を満たすものとして、十分なモデルとは言えない。

【例 1】 I want to be a singer. I want to sing songs in English.

I want to be like Kirara. I like her very much.

このモデル文の一部を換えて書くだけでは生徒の書く英文は画一的なものになり、コミュニケーションとして受け手を意識して、メッセージを伝える活動までは高まらないことが予想されるからである。下線部“want to ～”、“want to be～”、“want to be like～”は目標文「わたしの夢」を表現するためには有効な基本表現である。しかし、教科書を単元（題材）の配列で教えた場合“want to be～”の表現は、Multi-Plusで初めて登場する。このような状態で、モデル文を参考に英文を書かせても単なる語の入れ換えにすぎない。「弁護士になりたい」と表現したい生徒が“lawyer”の綴りを辞書で調べて、“I want to be a lawyer.”と英文を再生するだけでは、コミュニケーションとは言えないのである。書かせる前に、“want to be+職業名”を「聞くこと」「話すこと」の言語活動で自己表現させ、言語の働きを十分に理解させてから、コミュニケーションを目的として書かせることが大切である。また、4文目の“I like English very much.”は自分の気持ちを表現することで「理由を述べる」働きをもつ表現であるが、このような既習表現も、事前に言語活動でその働きを意識させないとモデル文の語を入れ換えた英語を書くだけの活動になってしまう。

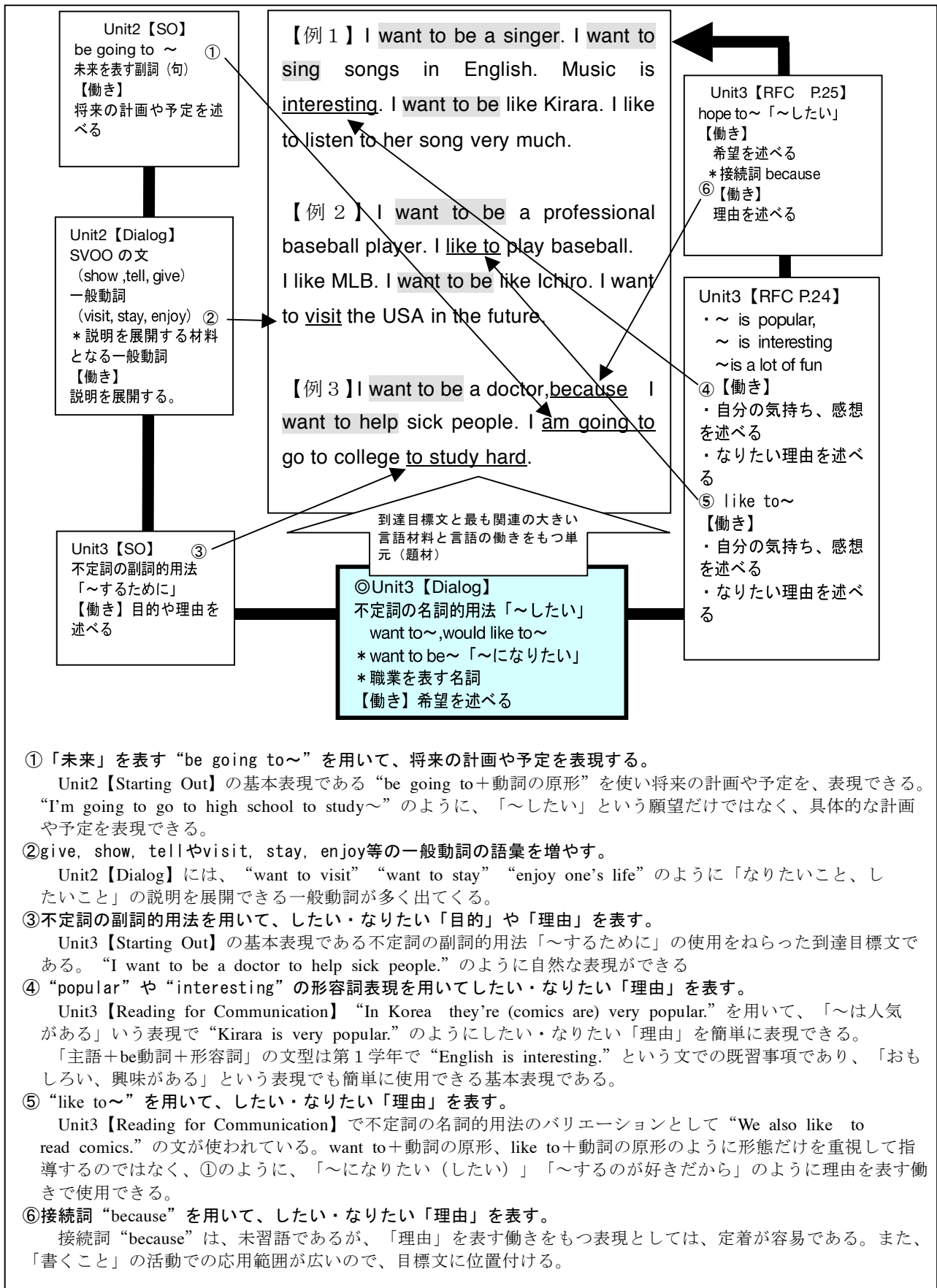
しかし、到達目標文の例を具体的に設定すれば、生徒の多様な自己表現に必要な語彙や既習の表現が明確になり、日常授業で培うべき基礎的能力がより明らかになる。そして、そのクールにおける単元（題材）の言語材料（語彙、基本表現）だけではなく、総合的な言語活動と結び付けるための言語材料を加えた指導計画の構想が可能となる。

到達目標文を具体的に設定することで、既習表現の活用のためのスパイラルな言語活動や、フォーマティブインプット&イージーアウトプット、またそれらと連動した「書くこと」の活動を実践的なコミュニケーション場面と結び付ける工夫ができる。

このような考え方で【補充資料 1】「到達目標文の例と言語材料・言語の働きの関係図」を作成した。次頁【図 5】は抜粋した第 2 クール「わたしの夢」における関係図である。

関係図における◎の単元（題材）は到達目標文と最も関連の大きい言語材料と言語の働きをもつ単元（題材）である。矢印で示した①から⑥は、生徒が多様な自己表現文を書くために単元（題材）の指導の際に到達目標文を意識させて、意図的に指導したい言語材料や言語の働きである。また、“want to be～”や“職業を表す名詞”のように教科書の該当する単元（題材）には出てこないが、事前に指導したい言語材料や言語の働きは*で表した。

“want to～” “want to be～”のような関連の大きい◎の単元（題材）ではフォーマティブインプット&イージーアウトプットの指導を行い、フォーマットに*のついた言語材料や働きをできるだけ取り入れる工夫をした。さらに既習表現の活用のためのスパイラルな言語活動（帯活動）を設定し、到達目標文に向けて、語彙や基本表現を自己表現として使わせる計画を工夫した。



【図5】第2クール「わたしの夢」における到達目標文の例と言語材料・言語の働きの関係図

【補充資料1】の関係図を基にしたフォーマティブインプット&イージーアウトプットの年間指導計画が【補充資料2】である。【補充資料2】ではバックワードデザインにより、到達目標と関連する言語材料や言語の働きをもち、フォーマティブインプット&イージーアウトプットを取り入れる単元（題材）を時系列で表した。【表5】はその抜粋である。

【表5】フォーマティブインプット&イージーアウトプットの年間指導計画（抜粋）

単元	総合的な言語活動に向けての指導の要点(*)とねらい	Formative Input & Easy Output [Easy Writing]における(ア)~(エ)は学習指導要領の「書くこと」の指導事項	目標とする総合的な言語活動
UNIT2 SO	<p>*新出文型を使った簡単な対話文なので、自己表現フォーマットを使用する</p> <p>①対話文のフォーマットで be going to~の形態と意味に慣れさせる</p> <p>②未来を表す副詞(句) tomorrow, next Sunday の部分を自己表現させ、未来形での使用を意識させる【1.5時間】</p>	<p>【働き】質問する 答える 【使用場面】友人との会話</p> <p>[音読練習] [自己表現&リハーサル]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【フォーマット4】（【補充資料3参照】）を用い、ペアで自己表現スキットを作成する ・ペアでスキットの発表練習 <p>[パフォーマンス]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアで自己表現スキットの暗唱発表（全員） <p>[Easy Writing] (ア) (エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマットの自己表現文を清書する ・次の日曜日の自分の予定を“be going to +動詞の原形”を用いて書いてみる ・副詞句“in the future”を用いた未来形の文を到達目標文を意識して書いてみる 	<p>総合的な言語活動Ⅱ 「わたしの夢」 《到達目標》 「将来なりたいもの」について、聞いて理解したり、自分についての4文程度の英文を書き、発表したりすることができる。</p> <p>《主な言語材料》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ want (would like) to +動詞の原形「～したい」、特に want to be～「～になりたい」
UNIT2	<p>*言語の使用場面が限定されているので、慣用表現の暗唱に重点をおく</p> <p>①SV00、特に show (～に...を見せる)の文に慣れさせる</p>	<p>【働き】依頼する 質問する、答える 【使用場面】入国審査</p> <p>[音読練習] [自己表現&リハーサル]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【フォーマット5】（【補充資料3参照】）で自己表現スキットを作成する ・ペアでスキットの発表練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ be going to +動詞の原形「～する予定である」

太線で示した単元がそのクールの総合的な言語活動における到達目標文に関係する言語材料をもつ単元（題材）である。関係図と指導計画に基づき、到達目標文に達するための基礎的能力を培うために使用するフォーマットとイージーライティング集を作成した。（【補充資料3】参照）

これらに基づき、研究協力校で実践を行うことにした。1年間にわたる実践になるので、基本的に研究協力校の担当教諭が授業を進めていくが、第2クールについては、研究者が検証のために実践を行うことにした。

(2) 指導実践計画

総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢」を到達目標とする第2クールは2ヶ月以上の期間が必要なので、9頁【図5】の関係図から、特に関係性の強い単元（題材）を選択し、次頁【表6】に示した計画で指導実践を行うことにした。試案に示したように、指導過程を、スパイラルな帯活動で言語材料を定着させ、総合的な言語活動とつなぐ【既習表現の活用】の過程、教科書の本文の学習である【新出表現の理解と練習】の過程、教科書の音読からフォーマティブインプット&イージーアウトプットによって総合的な言語活動への発展をねらう【自己表現活動】の過程の3つの過程に分け、実践計画には、中心となる指導過程のみを示した。

【表6】指導実践計画

回数	単元（題材）と主な指導内容（概要）
第1回	Unit2 Emi Goes Abroad 【Starting Out(1)】 【新出表現の理解と練習】 ・ Oral Introduction [関係図①] ・ 基本表現 “be going to + 動詞の原形” の導入と文型練習 [関係図①]
第2回	Unit2 Emi Goes Abroad 【Starting Out(2)】 【既習表現の活用】 ・ 基本表現 “be going to + 動詞の原形” の自己表現練習 [関係図①] 【自己表現活動】 ・ フォーマティブインプット&イージーアウトプット [関係図①] ・ イージーライティングで “next holidays” を用いた自己表現作文 [関係図①]
この間の単元（題材）は研究協力校の教員が実践	
第3回	Unit3 E-pals in Asia 【Starting Out(2)】 【既習表現の活用】 ・ 不定詞の副詞的用法を用いた文型練習（Q&A） [関係図③] 【新出表現の理解と練習】 ・ Oral Introduction [関係図②] ・ 基本表現 “want to + 動詞の原形” の導入と文型練習 [関係図②] 【自己表現活動】 ・ 到達目標（スピーチと掲示物作成「わたしの夢」）の提示
第4回	Unit3 E-pals in Asia 【Dialog】 【既習表現の活用】 ・ 基本表現 “want to + 動詞の原形” のQ&Aによる自己表現練習 [関係図②] 【自己表現活動】 ・ フォーマティブインプット&イージーアウトプット [関係図②]
第5回	Unit3 E-pals in Asia 【Dialog】 【自己表現活動】 ・ フォーマティブインプット&イージーアウトプット [関係図②] ・ イージーライティング “want to be” と職業を表す名詞を用いた自己表現作文 （注）生徒が使用したい職業名を調査し、語彙集を作成する。
第6回	Unit3 E-pals in Asia 【Reading for Communication(1)】 【既習表現の活用】 ・ “What do you want to be?” を用いた自己表現練習 [関係図②] 【自己表現活動】 ・ クラスの言語活動で使用が予想される職業を表す名詞や表現の練習 [関係図②]
第7回	Unit3 E-pals in Asia 【Reading for Communication(2)】 【既習表現の活用】 ・ “What do you want to be/do?” を用いた疑似コミュニケーション活動 [関係図②] （注）生徒の応答や反応から、生徒が使用されると思われる表現を予想し語彙集を作成する
第8回	総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢(1)」 ・ 語彙集を用いた発展的な言語活動 ・ 原稿の下書き・スキットの作成と発表
第9回	総合的な言語活動Ⅱ「わたしの夢(2)」 ・ スピーチの発表、録画 ・ 感想や質問の交流等の言語活動 ・ 掲示物作成

(3) 検証計画

ア 検証の視点

本研究の最終的なねらいは、実践的なコミュニケーションを目的として書く力を育成することである。この書く力を具体化したのが到達目標である。よって、まず、総合的な言語活動で生徒が書いた英作文を「達成した」か「達成していない」で判断する必要がある。ゴールに達したか、達しなかったかの判断である。判断する視点を次頁【表7】に示す「量、正確さ、適切さ」とした。

生徒の英語運用力の見取り方については、舟山（2004）が述べているように「生徒の英語力がどのように変容しているかについて、直接的に把握することは困難」である。関連する要素が多

すぎ、その全てを数値的に検証することは不可能だからである。そこで、課題（タスク）を設定し、「行動や行動の結果生じた作品などとおして英語力の変容をとらえる」ことが必要になる。

本研究における「総合的な言語活動」はこのタスクに相当する活動であり、行動の結果生じた作品である英作文「わたしの夢」が検証対象そのものになる。

また、判断するための三つの視点「量、正確さ、適切さ」は英国ナショナルカリキュラムを基にした「英語力の発達の見通し（舟山 2004）」を参考に設定した。英作文の「量」については、この「英語力の発達の見通し」における中学校の中位レベルに該当するように設定してある。「正確さ」は、スペリングや文法的な誤りのことであるが、第2学年1学期の発達段階を考えると、実践的なコミュニケーション場面での英作文では、語彙や文法の正確性のみに限定するのではなく、「伝達性」（communicability）を加味した「正確さ」として、とらえていく必要がある。また、「適切さ」は文章の構成についての適切性のことであるが、これも発達段階を考え、トピックセンテンスで初め、その理由を書いている等の単純な視点で判断することにした。

【表7】到達目標達成状況の判断の基準

視点	基準	判断の留意点
量	・3～4文程度の英文を書いているか	・3文以下の場合でも「正確さ」と「適切さ」で判断する
正確さ	・単語と単語の間隔は適切か ・大文字と小文字、符号の使い方は適切か ・スペリングミスはないか ・文法的な誤りはないか	・符号等の文の書き方については、修正が容易なので指導事項とし、意味が伝わる場合はマイナスの要因としない ・未習単語のスペリング、文法事項のミスの場合は、意味が伝わるかどうかという伝達性を加味する ・ミスの原因が指導にあれば、マイナスの要因としない
適切さ	・つながりを考えて、複数の文を書いているか ・自分の気持ちを表現しているか	・つながりとはトピックセンテンスから書き出し、「理由」を述べる文に既習表現を利用しているかで判断する ・「気持ち」を表現しているかは、基礎的能力を培う指導で学習した表現を使用しているかで判断する

また、生徒が英作文に使用した語彙、基本表現とフォーマティブインプット&イージーアウトプットにおける音読、スピーチやスキットの実現状況、イージーライティングの記述内容の関係性を分析することで、コミュニケーションを支える基礎的能力を培う指導の有効性を検証できると考える。

イ 検証計画の概要

以上のことから、検証計画を【表8】のように作成した。

【表8】検証計画の概要

検証項目	検証内容	処理方法
コミュニケーションとして書く力	・生徒の英作文が到達目標に達しているか	総合的な言語活動における英作文の記述から【表7】の基準で判断する
コミュニケーションを支える基礎的能力	①語彙力	総合的な言語活動における生徒の英作文とフォーマティブインプット&イージーアウトプット等の基礎的能力を培う指導の関係性を英作文やシート、授業のビデオの記録から見取り、総合的に分析して処理する
	②文法力	
	③音と文字をつなぐ力	